

Chateau Cheval Blanc 1979

シャトー・シュヴァル・ブラン



所有者 LVMH

オペレーション サンテミリオン

格付け プルミエ・グラン・クリュ・クラッセ A

シャトー・シュヴァル・ブランは、ジロンド川右岸、サンテミリオン村に位置しています。1955年のサンテミリオン格付け制定の際にシャトー・オーゾンヌと共にプルミエ・グラン・クリュ・クラッセ A に格付けされたトップ 2 大シャトーのうちのひとつです。サンテミリオンの村から北東 5km のところにあり、ポムロール村に隣接した高台に位置しています。

歴史は古く、1832年にデュカス家(Ducasse)が、もともとシャトー・フィジャック(現在、プルミエ・グラン・クリュ・クラッセ B)の一部であった15haの畑を購入したことに始まりました。当時、フィジャックはFelicite de Carle-Trajat伯爵夫人によって所有されていました。またデュカス家は1838年に土地の買い足しも行いました。

1852年、Henriette DucasseがJean Laussac-Fourcaudと結婚し、彼女はそのブドウ畑も持参金のひとつとして相続し、その後はLaussac-Fourcaud家が営んでいくことになりました。そして1862年と1867年に行われたパリとロンドンでの国際ワインコンクールでは、メダルを獲得するなど大成功を収め、その金賞メダルは今日、ラベルに飾られています。Laussac-Fourcaud家は、家族経営でシャトーを長きに渡り守っていましたが、1998年、高級ブランドで有名なLVMHのBernard Arnaultとベルギーの商人、Albert Frereへと売却しました。現在は、シャトー・ディケムと共にPierre Lurtonが総責任者となっています。

シャトー・シュヴァル・ブランはフランス語で「白い馬」という意味です。著名なワインでは類を見ないカベルネ・フランを主体とするブレンド比率です。

サンテミリオンは2つの土壌のタイプに分けることができ、一つの代表格がここシュヴァル・ブランであり、主に砂利質土壌(砂、鉄、粘土などを含む)です。このメドック地区同様の砂利質土壌はカベルネの栽培に非常に向き、砂利質土壌に植えられたカベルネ・フランは、シュヴァル・ブランならではのスマイルの香りを生み出し、また粘土質に植えられたカベルネ・フランは丸みを、メルローは構造と密度をもたらしとされています。また35hl/haと非常に収量を抑え、芳醇で凝縮感のあるワインを生産しています。長期熟成と共に調和や深みを増し、20年や30年の熟成を経て真の本質を発揮してくれるワインだと考えます。(もう一つのタイプは、村のちょうど下にあたる丘の斜面(コート)の粘土石灰質土壌。ここの代表格が、シャトー・オーゾンヌです。)

シャトー・シュヴァル・ブラン 1979 は、カベルネ・フラン主体、メルローから成ります。赤系果実、例えばタルト菓子にのっている焼チェリーのような甘み、ほのかに甘草を思わせるようなスパイス香、と同時に乾燥したセップ茸や湿った土のニュアンスも。優しい舌触りで深みを感じます。既に飲み頃を迎えており、熟成したカベルネ・フランの偉大さを感じて頂けるワインかと考えます。

参考情報

土壌 砂利質、砂、粘土、鉄

栽培面積 37ha

栽培比率 58% カベルネ・フラン、42% メルロー

平均樹齢 45年

栽培密度 8,000本

醗酵・マセラシオン 21~28日

樽熟 18ヶ月(新樽100%)

年間生産量 6,000ケース(セカンド:2,500ケース)

s.a.r.l.Trente-Trois

39, rue Huguerie, 33000 Bordeaux, FRANCE Email:33@trente-trois.fr, Tel: +33(0)953459303